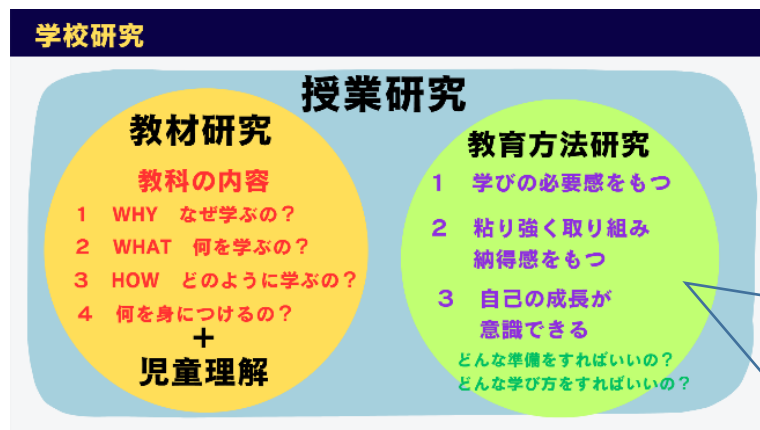


「他と協働し、自らくらしを創造する子供の育成」
～確かな教材研究に基づいた授業づくりと見取り～（二年次）

1. 研究主題設定・継続の理由

資料1



【資料1】 R7 第1回研究全体会資料

ただこのような気持ち
になればいいのではな
く、育成すべき資質能力
が育成されたり、児童が
教科の見方・考え方を働
かせて学ぶ中で児童がこ
のような気持ちになって
いることが重要です。

令和7年度に授業を通して学校教育目標の達成を目指すという考えから、主題は学校教育目標と一体とし、副題として「確かな教材研究に基づいた授業づくりと見取り」と設定した。

学校研究として授業研究に取り組むこととし、本校では授業研究を資料1のように教材研究と教育方法研究を合わせたものとして考えている。教材研究では、「WHY（なぜ学ぶのか） WHAT（何を学ぶのか） HOW（どのように学ぶのか）」を柱とし、教科の本質を見つめなおすとともに、単元の系統性や学習履歴を意識する。そして、教材研究、教育方法研究の両面から子供たちに本当に力が付く授業改善を行っていきたいと考えた。

今年度は二年次として、昨年度の反省を生かしてさらに授業研究を進めていく。昨年度末の研究に関するアンケートや授業研究会でのご指導を通して、成果と課題が明らかになってきた。今年度は研究主題副題における「見取り」を昨年度以上に意識し、授業改善を行ったことによって子供にどのくらい力が付いたのか振り返ってまた授業改善に生かすサイクルを回していきたい。

2. 研究方法

（1）研究の進め方

研究は以下のような流れで進めていく。

- ① 学校教育目標（マトリクス表の資質・能力）と学級の実態を照らし合わせて、適切な単元を選ぶ。令和8年度は国語・算数の授業方法を中心として選ぶ。

② 教材研究について

Why（なぜ学ぶのか,学習の価値）

What（何を学ぶのか,教科の見方・考え方）

How(どのように学ぶか・学習計画)を考え,指導案に表す。

授業づくりのベースとなるので,

- ・ **各教科の学習指導要領解説**
- ・ ○○科において育成を目指す資質・能力（文科省）
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ・ その他参考資料

を参照し、事前研を行って内容を十分に吟味する。また、指導してくださる講師の先生に事前にご相談する。

③ 授業方法研究について

- (1) 学習計画 …子供と共有する
- (2) 構造的な板書…子供の思考を促す・子供の学びがわかる
- (3) 環境づくり …多様な情報提要 思考を促す 自らアプローチする
- (4) 振り返り …教師自身が見通す 黒板とのリンク 次時へのつなぎ

④授業をみとる視点

- (1) その教科・単元で育成すべき資質・能力が育成されているか。
- (2) 子供が教科の見方・考え方を働かせて課題に向き合うことができているか。
- (3) (1)・(2)を達成する過程で必要感・納得感・成長の実感が子供たちにあるか。

ことばの教室（構音指導）における授業作りの3つの視点

構音指導とは、子供の実態に応じて正しい構音に導く方法を分かりやすく伝え、正しい構音を身につけさせることである。構音操作は呼吸のように自動化されていることが望まれる一方で、正しい構音操作を明示的に学ぶ学習材は、注意力を要する細かい作業を伴うことが避けられない困難さがある。それでも、正しい構音を習得する過程で、子供が楽しく活動しながら生き生きと学び自信をつけていくように、学習を仕組んでいくことが求められる。

よって、「構音」と「良好な関係性」の両方に関わる見識と実践的な手立てを追求していくことが必要である。

●Why(なぜ学ぶのか)：

伝わりやすい音声言語の基になる日本語の正しい発音を身につけるため。

●What(何をまなぶのか)：正しい構音

●How(どのようにして学ぶのか)：

未学習の構音には新たな動かし方を伝え、誤学習の構音には誤りを修正して正しい構音操作を身につけさせる。正しい構音は、人と関わる生活の中で使えることばの広がりや深まりがあってこそ、生かされる。習得した先に、今より豊かなことばの世界が広がるよう配慮された学びであることが望まれる。教材研究は、How(如何に)に焦点をあてて、行っていきたい。

授業の見取りにあたっては、児童に育成すべき資質・能力が育成される過程で、

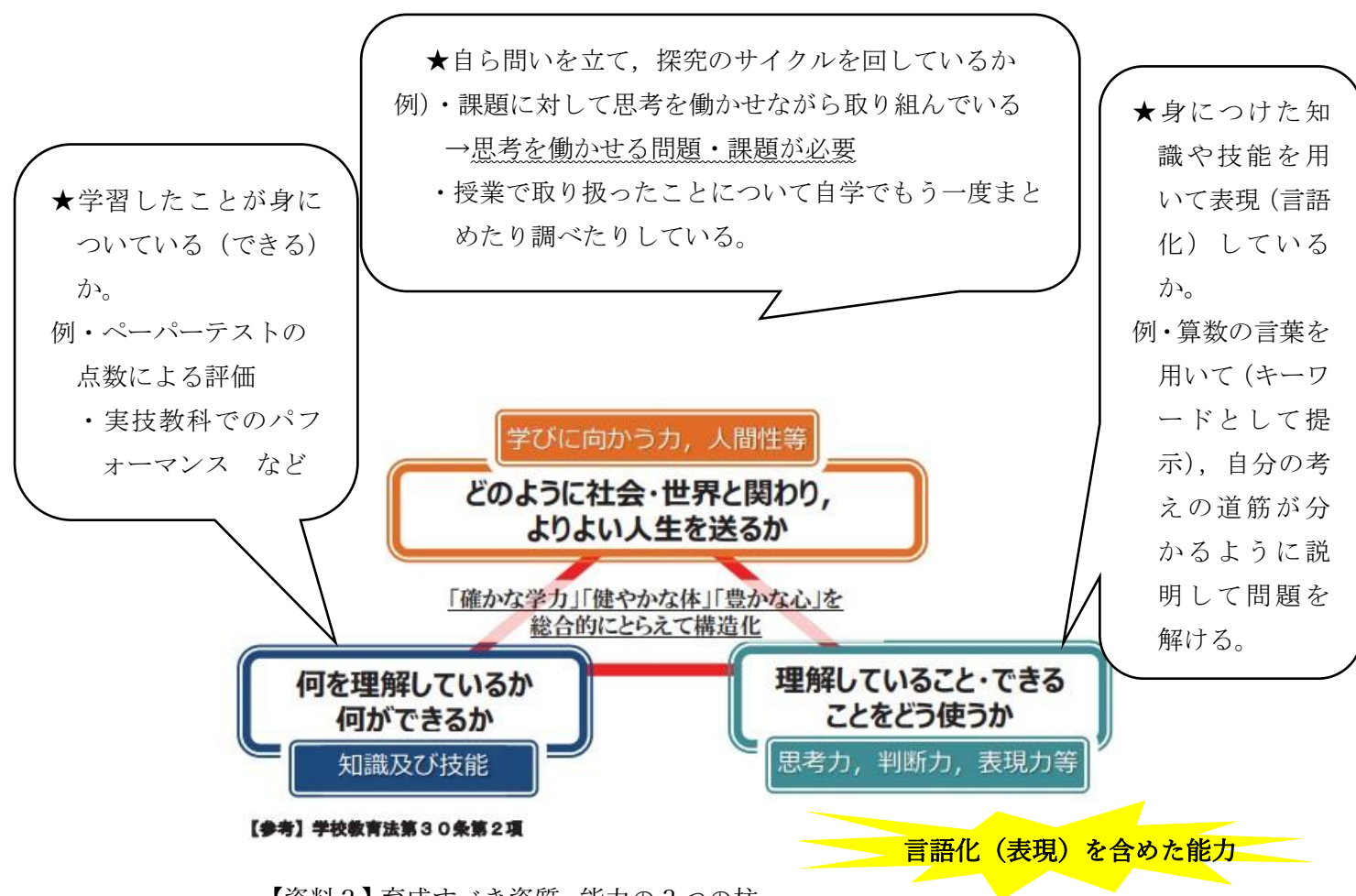
- ①学ぶ意欲が高められているか
- ②自分事として取り組み、できている実感が持てているか
- ③学びで得た自信を次の学びにつなげているか

に着目し、児童の姿や指導の在り方を改善していく。

※今後、だれもが言語通級の担当となる可能性がある。個別支援の方法や心構えを学ぶとともに、言語通級指導についての専門的な知識をつけていく必要がある。

(2)「評価」の仕方

単元を始めるにあたり、育成したい資質・能力（単元の目標）に対する評価基準を明確にもって継続的に評価する。どこまでできたらB評価（目標達成）となるかをはっきりさせることにより、正確な評価、単元の途中での計画の見直し、言葉かけの質向上など、評価によって児童の力と授業の質両方を高めていく。以下は評価方法の例。



【資料2】育成すべき資質・能力の3つの柱

(3) 研修について

- 日常的に授業づくりについて語り合ったり、ICTの活用方法を学んだりするために、「チャットタイム」（毎週金曜日 16:10～16:40）を設定する。
チーム学校として、全員で子供を育て、私たちも成長していくために知識や経験を共有していく。業務に関する悩み（教材研究・授業の進め方・評価など）・学級経営・校務分掌だけでなく、普段考えていること、「もっとこうだったらいいのにな。」と思うことを話し合う。
- 「学級づくり」や「授業づくり」などについて専門的な見地から指導・助言をいただく。
今後力を入れて学んでいきたいテーマは、確かな教材研究・複式の授業づくり、言語通級の指導である。まずは「知る」というところから積極的に授業見学や専門家をお呼びしての研修を行いたい。

3. 研究組織

【研究推進委員】 校長,教頭,教務,研究部所属職員

【研究部】 学年ブロックより1名

全体統括,研究会の運営および紀要取りまとめ,チャットタイムの運営,庶務全般等を行う

4. 本年度の研究計画

(1) 授業研究会の持ち方について

授業研究会は「大規模授業研究会」の規模で全員が行うものとする。今年度は、手挙げ制により「国語」と「算数」に絞って行う。ただし、特別支援学級はその限りではない。また、「ことばの教室」はすべて小規模研究会で実施する。2・3時間目の続きで実施する。担当外の教員も積極的に参加し、言語通級指導について学ぶ。

事前研究会は以下のグループごとに行う。

グループ	メンバー(案) ◎…リーダー (研究部)
A 下学年部	◎1年担任,2年担任,3年担任,たんぽぽ担任,教務+校長 or 教頭
B 上学年部	4年担任,◎5年担任,6年担任,もみじ担任 +校長 or 教頭
C ことば	言語通級指導教員

※前年度学年ブロックごとに実施していたが、人数が少なく研究会の日程によっては事前研が難しいこともあったため、このように再編した。同じ日に授業研を二つ以上行う場合は、Aから1人、Bから1人などのように同じグループ内からは1名になることが望ましい。

【研究会の基本的な進め方】

- ① 4月初めに、どの時期にどの教科で研究授業を行うか決定し、講師の依頼を行う。
- ② 授業予定日の 1 か月～1 か月半前にグループリーダーが招集をかけて集まり、授業づくりの検討を行う。事前に講師等への相談を積極的に行う。
- ③ 2週間前までに指導案の原案を作成し、グループメンバーおよび研究主任に提出する。
- ④ 修正した指導案を 1週間前までに研究主任に提出する（校長・教頭への提出は研究主任が行う）。

※講師の先生には少なくとも1週間前～2週間前には指導案をお送りするようにする。

事前指導なしの場合は特に早めに。

- ⑤ 全員が授業および事後研究会に参加する。子供にその教科で育成すべき資質・能力が身についたか・教科の見方・考え方を働かせているかを中心に話す。

※教科ごとの育成すべき資質・能力は、以下の資料等を参照し明らかにしておく。

- ・ 国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ・ 教育課程部会 ○○科ワーキンググループの資質・能力に関する資料

- ⑥ 授業研究会終了後、振り返りをタブレットに記入する。

（２）研究紀要の作成について

本年度の研究の成果や課題などを明らかにするために研究紀要(A4版1枚程度)を制作する。

PDF形式にし、タブレットやパソコン上で見られるようにする。研究授業後1ヶ月以内（単元終了を目安に）に作成する。研究紀要の項目は以下の二つ。

- ① 授業研究会の指導案
- ② 授業・単元全体を通して育成すべき資質・能力が身についたか

(3) 研究に関わる主な日程（令和8年度）

日付	項目	主な内容	学年・教科・講師
4月2日	水	研究全体会①	研究概要の確認
5月8日	金	研究全体会②	新しい指導案の形式の提案
7月7日	火	第1回校内全体授業研究会	授業を通した研修 5年・算数 奈良崎芳晴先生
7月17日	金	第2回校内全体授業研究会	授業を通した研修 3年・算数 鈴木奈緒子先生
7月28日	火	研究全体会③ 学級経営研修会①	・1学期の実践の振り返り ・授業の土台となる学級経営について学ぶ
8月25日	火	研究全体会④	2学期後半の取り組みを考える
9月11日	金	第3回校内全体授業研究会	授業を通した研修 もみじ
10月7日	水	第4回校内全体授業研究会	授業を通した研修 1, 2年・国語 三浦登志一先生
11月20日	金	第5回校内全体授業研究会	授業を通した研修 たんぼぼ
12月25日	木	研究全体会⑤	2学期の実践の振り返り
1月7日	木	研究全体会⑥	今年度の研究の総括
1月19日	火	第6回校内全体授業研究会	授業を通した研修 4, 6年・算数 齊藤 一弥先生
2月20日	金	研究全体会⑦	次年度の研究の方向性を示す
2月27日	金	研究全体会⑧	次年度の研究の具体的な内容 を示す
3月中旬		研究紀要の完成	PDF形式

*ことばの教室に関わる授業研修会は7月に1回、9月に2回を予定しており、映像での参観その後事後研究会を行う。Cことばグループの先生方は全員参観。

他グループの先生の参加方法については、3回の内1回以上の映像での参観をすすめ、ことばの教室の先生方の指導の空き状況を見て、チャットタイム等で児童の個別指導等について話を聞く。